コラーレ2003草のうたげ

19世紀末、スペインの植民地支配は
崩壊し始める。
フィリピンでも独立の気運が
高まりつつあった。
ホセ・リサールは、
科学、芸術、語学に秀でた天才作家。
彼はスペイン最大の政敵であった。
独立の英雄がたどる、短くも激烈な人生を
壮大なスケールに描いた記念碑的大作！
フィリピン映画の本格的日本初公開。

ホセ・リサール

この名前を、わたしたちは永遠に忘れない。

フィリピン独立100周年記念作品
マリルー・ディアス＝アバヤ監督作品

JOSÉ RIZAL

セサール・モンタノ、ハイメ・ファブレガス、ジョエル・トーレ、ガルド・ヴェルゾーザ、グロリア・ティアス、モニーク・ウィルソン／監督：マリルー・ティアス＝アバヤ／脚本：リッキー・リー、ジョン・ラナ、ピーター・オング・リム
撮影監督：ロディー・ラッキャブ／美術：レオ・アバヤ／衣装：マイク・ヴィイソン／編集：ヘス・ナヴァロ、マネ・デイリ／音楽：ノノン・ブエンカミノ／製作：ブッチ・ヒメネス、ジミー・ダヴィット、マリルー・ディアス＝アバヤ
製作総指揮：メナルド・R・ヒメネス、ギルベルト・M・ダヴィット、フェリペ・L・コゾン／フィリピン／GMAフィルム／1998年／カラー／178分／配給：岩波ホール

世界の名画を見る会vol.20 企画・構成 高野悦子

● 講　演（14：00～）
高野悦子「東南アジアの女性映画人」

● 上映作品（15：00～）
「ホセ・リサール」
（フィリピン／1998年／カラー／178分）

2003 4月20日(日)
開場13：30
開演14：00

黒部市国際文化センター コラーレ（カーターホール）
全席指定 1,500円

●この公演は黒部市の助成により低料金に設定しております。
●5歳未満のお子さまの入場はご遠慮願います。
●公演中の一時保育（無料）を希望される方は事前にご連絡ください。

■主催：財団法人黒部市国際文化センター　■共催：北日本放送　■後援：黒部市　黒部市教育委員会

■プレイガイド

黒部市	コラレー	(0765)57-1201
	メルシー	(0765)54-2221
魚津市	新川文化ホール	(0765)23-1123
	魚津サンプラザ	(0765)24-3030
入善町	コスモホール	(0765)72-1105
	コスモ21	(0765)74-9100
宇奈月町	宇奈月国際会館	(0765)62-2000
朝日町	アスカ	(0765)82-2000
滑川市	サン・アビリティーズ	(076)475-3342
富山市	インフォマート［市民プラザ］	(076)491-0110
	［CIC駅前店］	(076)444-7013
婦中町	アルプラザ富山(ファポーレ内)	(076)486-1828
高岡市	高岡大和	(0766)27-1774

●お問い合せ・チケットの申込み●
コラーレ
富山県黒部市三日市20番地
TEL. 0765-57-1201
FAX. 0765-57-1207
http://www.colare.jp/
e-mail:info@colare.jp
開館時間：9:30～22:30（土曜～23:00）／毎週水曜休館

フィリピン独立100周年記念作品★マリルー・ディアス＝アバヤ監督作品

ホセ・リサール JOSÉ RIZAL

セサール・モンタノ、ハイメ・ファブレガス／監督：マリルー・ディアス＝アバヤ／脚本：リッキー・リー、ジュン・ラナ、ピーター・オング・リム／撮影監督：ロディー・ラッキャブ／フィリピン／GMAフィルム／1998年／カラー／178分
フィリピノ語／ヴィスタヴィジョン／ドルビーSR／配給：岩波ホール／A Production of GMA Network Films

フィリピン映画史上最大のヒット作！

映画「ホセ・リサール」は、フィリピン独立運動の理論的指導者であったホセ・リサール（1861～1896）の短くも劇的な生涯を描いた歴史大作である。この作品は1998年の独立100周年を記念して企画され、監督には名実ともにフィリピンを代表するマリルー・ディアス＝アバヤが選ばれた。国内では人々の熱烈な支持を受け、このアジアの映画大国において、観客動員、興行収入などで、これまでの記録を塗りかえる大ヒットとなった。

植民地からの独立を導いた作家ホセ・リサール。

ホセ・リサールは、19世紀末、フィリピンの民族意識を高め、やがてスペインの植民地からの独立運動を推進させた2冊の小説『我に触れるな』（1887）、『反逆』（1891）を書いたことで知られる。スペイン聖職者や、当局の不正義を告発したリサールは、やがて権力者の憎しみをかい、国家反逆の罪を着せられて、35歳にして処刑された。

ホセ・リサールは、22ヶ国語に通じ、文学だけでなく、美術、医学、博物学、言語学など、多方面で才能を発揮した天才だった。マハトマ・ガンジーと同じく非暴力主義を貫き、「人種間の平等」「男女間の平等」「教育の価値」「人間性の大切さ」など、現代においても価値のある多くの理念を持つ思想家であった。アバヤ監督は、この神格化された人物の作品化にあたり、リサールの小説作品を紹介しながら、単なる偉人伝とはせずに、民衆や家族を思い、恋に悩み、魂を込めて芸術に打ちこむ一人の人間の物語として描いている。家族のあたたかい愛情につつまれて育った少年時代、監禁されたリサールと弁護人タビエルとの交流――、人生に疑問を抱き、自らの思想を見つめ、悩みながらも信念を貫いていくリサールの等身大の姿は、見ている者の心を強く揺り動かす。アバヤ監督は、「ホセ・リサールが始めた革命の戦いは未完に終わりましたが、彼がそのために生き、死んでいった理想を、私たちは継承し、完結しなければなりません」と語り、ホセ・リサールの思想の新しさを語る。この作品は、フィリピン国内において、リサールの再評価の動きを生み、彼の思想が今あらためて検証されている。

アジアを代表する女性監督、マリルー・ディアス＝アバヤ。

アバヤ監督は1955年生まれ。フィリピン監督協会の創立メンバーでもある彼女は、1980年の初監督作品「鎖」以来、精力的に製作を続け、1994年以降にはほぼ毎年新作を発表している。レイプの問題を扱った「貴女のためにたたかう」（1995）、貧困のため国外で働く母親の物語「マドンナ・アンド・チャイルド」（1996）など、社会的なテーマを女性の視点で描いた作品で知られる。日本でも、福岡アジア・フォーカス、東京国際女性映画週間を通して、最も知名度の高いアジアの女性監督の一人である。また、2001年9月には、これまでの一貫した製作姿勢が評価されて、福岡アジア文化賞（福岡市主催）の芸術・文化賞を受賞した。

主人公ホセ・リサールを演じたセサール・モンタノは、聡明で人間性豊かなホセ・リサール像を自然に演じることができる希有な俳優である。この作品でフィリピンの大スターの地位を確立し、アバヤ監督の次回作「ムロアミ（原題）」（2000）では、スキンヘッドの荒々しい漁師を演じて、幅広い才能を観客に印象づけた。

なお「ホセ・リサール」は、フィリピン映画の本格的日本初公開作品であり、日本にとって大変関わりの深い国、フィリピンを知るうえでも見逃せない作品である。